

学部間共通科目運営委員会 自己点検・評価報告書

1 理念・目的

(理念・目的等)
★現状(評価)
・現状 明治大学の各学部設置される共通科目(情報科学センター, 国際交流センター, 資格課程委員会及び学部間共通外国語教育運営委員会のそれぞれが運営する授業科目を除く。以下「学部間共通科目」という。)の授業計画を立案し, 及びその円滑な運営を図るため, 教務部委員会の下に, 専門部会として明治大学学部間共通科目運営委員会は置かれている。 本委員会では主に(1)学部間共通総合講座, (2)共通語学科目, (3)体育実技科目の学部間相互乗入れ等の共通科目について, 他の機関との連携を図りながら検討に取り組んでいる。 各学部間における科目履修, 単位修得の垣根を低くし, 学部間共通科目化を推進することが, 本委員会の大きな目的である。
★改善方策
・問題点に対する改善方策 総合講座, 共通語学, 体育実技のみではなく, 学内の共通科目について全学的に検討する委員会を設置し, 総合的に調整する。

2 教育研究組織

(教育研究組織)
★現状(評価)
・現状 運営委員会は, 次に掲げる委員をもって組織する。 (1) 教務部長 (2) 副教務部長 1名 (3) 各学部の教授会から推薦された専任教員各1名 計9名 (4) 教務部委員会が必要と認めた授業科目を担当する専任教員 若干名 運営委員会には, 必要に応じ, 分科会を置くことができる。
★改善方策
・問題点に対する改善方策 上記組織の(4)は, 各科目分野から1名である。委員を拡大して, 全学的な検討の委員会とする。また(3)についても教務主任クラスが望まれる。

3 教育内容・方法等

(1) 学士課程の教育内容・方法

①教育課程等

(教育課程)
★目的・目標

★現状(評価)

・現状

(1) 学部間共通総合講座について

①学部間共通総合講座の趣旨

社会の制度や仕組みが大きく変化するなかにあつて、本学の教育理念・目的は「個性を大切に自立心の強い人材を育成する」ことにある。

学部間共通総合講座は、この教育理念・目的に基づき、学部設置のカリキュラムを基礎としながら、なお学部や文理の枠を越えた学際的講義を学生諸君に積極的に提供することにより、幅広い学問的視野や問題発見能力、判断能力を培うことを主眼とするものである。本学の全ての学生にとって有益となるテーマをそうした趣旨のもと多様な講座を設定している。

また、各々の講座は、各分野の第一線で活躍するゲスト講師を多数招き、現代社会で話題となっている事柄、最先端のホットなニュース等をテーマに取り上げている。

②学部間共通総合講座の体系について

この講座は、(ア)地球市民講座、(イ)技術戦略とビジネス講座、(ウ)現代メディア講座、(エ)キャリアデザイン講座、(オ)歴史・哲学講座の5つの体系に分類することができる。各講座の趣旨は次のとおりとなっている。

(ア)地球市民講座

一つの課題が地球的、国際的かつ、地域的に波及する時代の中で、私達がこの時代を地球市民として歩み考えねばならぬ問題を正面から捉えるものである。

(イ)技術戦略とビジネス講座

進歩の著しい技術や知財を企業戦略の中で考える。国際化や情報化が進む企業や経営についても認識を深める。起業や知的財産の問題、新たな経営動向などの認識を深める。

(ウ)現代メディア講座

政治・経済・社会・スポーツ・外信・科学・論説担当など、各分野の一線の記者が取材を通して得た経験をもとにした講義。現代社会の実像に迫り、その特徴を浮き彫りにすると共に、メディアの活動・役割についても学ぶことができる。

(エ)キャリアデザイン講座

目的をもって学習することが大切な時代である。人生と仕事についての基本を学んだり、明大の就職・キャリア形成支援事務室の活動についても知ることができる。また、一線で活躍する職業人の話を聞くと共に、会計士・税理士などの具体的な職業について学ぶことができる。

(オ)歴史・哲学講座

この講座は、私達が身体も精神も包括する存在として、己を見つめ、己の歴史的 위치を確認し、未来に向けての生き方を探求するものである。

(2) 共通語学科目について

共通語学科目としては、ロシア語11コマ(文学部設置科目7コマ、経営学部設置科目4コマ)、スペイン語1コマ(文学部設置科目)が設置されており、ロシア語は、法学部・商学部・文学部・経営学部・農学部の学生、スペイン語は、政治経済学部・文学部の学生に受講する機会を提供している。

(3) 体育実技科目の学部間相互乗入れについて

和泉地区は2000年度から、生田地区は2001年度から選択体育実技科目の学部間相互乗入れを実施している。これにより、学生に対し、希望する種目の受講機会を拡大して提供することができた。

さらに、2005年度からは、和泉地区開講科目に関しては、2年次に限って、募集の際の科目設置学部在籍学生優先は生かしつつ、他学部も含めて一斉に募集する方式へと改善を図り、学生の受講機会を拡げている。

・長所および問題点

本学に設置されている多種多様、豊富な科目を科目設置学部以外の学生に開放し、共通化を推進することは、学生にとっては幅広い科目の履修、所属学部には設置されていない科目の履修が可能となり、有意義なこととなる。

ただし、学部の教育理念によって、その科目の位置付け、捉え方に差異があるため、その科目の取扱い方、履修可能な上限単位数等については、学部ごとに異なっているのが現状である。

(1) 学部間共通総合講座について

近年、魅力ある講座を多数設置したことにより、履修者数が激増している。ただ、このことにより、特に和泉校舎では教室の確保が困難な状況となっているため、講座によっては履修制限等を行い、受講者を制限している講座もある。また、講座の増加により予算的にも大きな規模になってきている。

(2) 共通語学科目について

本学では、ロシア語、スペイン語の設置科目数は少ない状況であるが、共通化により、この科目の履修する機会を多く与えることができる。

(3) 体育実技科目の学部間相互乗入れについて

スポーツには多種多様な種目があるが、この科目の学部間相互乗入れにより、幅広い種目(卓球、ゴルフ、水泳、サッカー、剣道、フィットネス、アクアスポーツ他)の中で興味のある種目、所属学部では設置されていない種目の科目を履修する機会を与えることができる。

★改善方策

・問題点に対する改善方策

本学では、多様な科目設置機関(学部、資格課程、情報科学センター、国際交流センター、学部間共通外国語運営委員会及び学部間共通科目運営委員会がある。)による科目群・科目数が全体として調整されずに設置され、また更に科目の細分化が進行していくならば、種々の問題が生じてくる危険性がある。

大学は、2004年4月をもって、二部の学生募集の停止と新学部を含めた「文系全学部の授業設計のフレックス化」を決定している。「授業設計のフレックス化」は、文系全学部がそれぞれに望ましい形でこれを実施することを承認しているが、その際各学部とも学部間での科目の共通化、連携の強化を提言している。

このような学部間共通化の必要性が要望されている状況に鑑み、本委員会では、各学部、各関係機関との連携を強化し、学部間の科目の共通化の基本方針についての諸方策を推進していきたい。

(1) 学部間共通総合講座について

2008年度以降も、各学部、各機関から積極的により魅力ある斬新な講座を提供してもらうスタンスに変わりはないが、講座の趣旨にたちかえり、総合講座全体を見直す時期にきている。

(2) 共通語学科目について

2007年度以降も、社会状況の変化、学生からの要望等を考慮しながら、共通語学科目についての検討をし、共通化を推進していきたい。

(3) 体育実技科目の学部間相互乗入れについて

2007年度以降も体育教員会と連携を強化しながら、相互乗入れをさらに推進していきたい。

(授業形態)

★目的・目標

★現状(評価)
・現状 ○学部間共通総合講座の運営方法について この講座は、経験豊富な本学教授陣に加え、広く学外からその分野の第一人者を講師として招聘し、リレー方式で講義を進める「総合授業」として実施している。 一つの講座は、学年暦に従って授業が設定されており、各授業ごとにテーマが設定されている。このテーマごとに、各々の分野のエキスパートが講義を担当し、結果として大きなテーマ(講座のタイトル)について総合的に理解することとなる。複数の講師から学ぶことにより、多角的なものの見方を養い、教科書では学べない多様な実地体験を聞けるといったメリットがある。 学部間共通総合講座は、1995年度から開設しており、2007年度は、3地区において、33テーマ50講座を開設し、前後期合わせて5800名を越える履修者数を数えている。 ・長所 文理の壁を越えた講義、その分野の第一人者の講義を受講できる。 ・問題点 講座数が増大し、類似したテーマの講座が増えてきた。
★改善方策
・問題点に対する改善方策 この講座が立ち上がるに至った初期の理念に戻り、全体の見直し、再構築が必要である。
(単位認定等)
レポート提出に出席を加味するケースが多い。
★目的・目標
★現状(評価)
・現状 ・長所 ・問題点 単位取得を目的に履修するケースが見受けられる。
★改善方策
・問題点に対する改善方策 外部講師のリレー式講義という性格上、コーディネーターの役割が重要となる。コーディネーターの講座への係りを増大させる。

②教育方法等

(教育効果の測定)
○教育上の効果を測定するための方法の有効性
★目的・目標
★現状(評価)
・現状

・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策
(成績評価法) ○ 厳格な成績評価を行う仕組みと成績評価法，成績評価基準の適切性
★目的・目標
★現状(評価)
・現状 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策
(履修指導) ○ 学生に対する履修指導の適切性
★目的・目標
★現状(評価)
・現状 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策
(教育改善への組織的な取り組み) ○ 学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み(ファカルティ・ディベロップメント(FD))およびその有効性 ○ シラバスの作成と活用状況 ○ 学生による授業評価の活用状況

★ 目的・目標
★ 現状(評価)
・現状 ・長所 ・問題点
★ 改善方策
・問題点に対する改善方策
(授業形態と授業方法の関係) ○ 授業形態と授業方法の適切性, 妥当性とその教育指導上の有効性
★ 目的・目標
★ 現状(評価)
・現状 ・長所 ・問題点
★ 改善方策
・問題点に対する改善方策

8 教員組織

(1) 学部等の教員組織

★ 目的・目標
(教員組織) ○ 教員組織の適切性 ・ 教員組織における社会人の受け入れ状況 ・ 教員組織における外国人の受け入れ状況 ・ 教員組織における女性教員の占める割合
★ 現状(評価)
・現状

・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策
(教員の募集・任免・昇格に対する基準・手続) ○ 教員の募集・任免・昇格に関する基準・手続の内容とその運用の適切性
★現状(評価)
・現状 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策

9 事務組織

★目的・目標
(事務組織の構成) ○ 事務組織の構成と人員配置
★現状(評価)
・現状 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策
(事務組織の役割) ○ 教学に関わる企画・立案・補佐機能を担う事務組織体制の適切性 ○ 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動の適切性 ○ 国際交流等の専門業務への事務組織の関与の状況

○ 大学運営を経営面から支えうるような事務機能の確立状況
★現状(評価)
・現状 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策

10 施設・設備等

★目的・目標
(施設・設備等の整備)
○教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性
★現状(評価)
・現状 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方策

12 管理運営

★目的・目標
(委員会)
○委員会の役割とその活動の適切性
★現状(評価)
・現状 運営委員会は、委員長が招集する。 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。 運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによ

る。
★改善方策
・問題点に対する改善方策
(委員長の権限と選任手続) ○委員長の選任手続の適切性, 妥当性
★現状(評価)
・現状 運営委員会に, 委員長及び副委員長各1名を置く。 委員長は, 委員会規程第3条第1項第1号の委員をもって充て, 副委員長は, 委員のうちから委員長が指名する。 委員長は, 会務を総理する。 副委員長は, 委員長を補佐し, 委員長に事故あるときは, その職務を代行する。
★改善方策
・問題点に対する改善方策
(意思決定) ○意思決定プロセスの確立状況とその運用の適切性
★現状(評価)
・現状 運営委員会は, 次に掲げる事項について審議し, 意思決定を行う。 (1) 学部間共通科目の設置に関すること。 (2) 学部間共通科目の授業計画及び調整に関すること。 (3) 学部間共通科目の授業の実施に関すること。 (4) 前3号のほか, 学部間共通科目に関し運営委員会が必要と認めたこと。
★改善方策
・問題点に対する改善方策

14 自己点検・評価

★目的・目標
(自己点検・評価) ○自己点検・評価を恒常的に行うための制度システムの内容とその活動上の有効性 ○自己点検・評価の結果を基礎に, 将来の充実に向けた改善・改革を行うための制度システムの内容とその活動上の有効性
★現状(評価)
・現状

- ・長所
- ・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方策